

## 審査結果の要旨

報告番号	乙 第 <b>2896</b> 号	氏名	横地 賢興
審査担当者	主査	谷脇 孝幸	(印)
	副主査	高須 修	(印)
	副主査	田中 永一郎	(印)
主論文題目： Prediction of acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion in patients with febrile status epilepticus (熱性けいれん重積を対象としたけいれん重積型二相性脳症発症の早期予測)			

### 審査結果の要旨 (意見)

けいれん重積型二相性脳症 (AESD) は本邦で最も頻度が高い小児の急性脳症であるが、病初期に複雑型熱性けいれんとの鑑別が困難なため、介入が遅れて後遺症を残すことが多い。本研究は臨床経過、簡単な血液検査データを基にして、AESD を早期に診断するためのスコアリングモデルを作成したものである。その研究成果は AESD の診断、治療に大きく貢献できるものであり、学位論文として高く評価できる。

### 論文要旨

けいれん重積型二相性脳症 (AESD) は本邦で最も頻度が高い小児の急性脳症である。典型的な AESD は熱性けいれん重積 (FSE) で発症し、一旦意識は改善するが数日後に再度けいれんが群発し意識障害が増悪する。その際に頭部 MRI の拡散強調画像にて特徴的な皮質下白質の高信号を認める。病初期に複雑型熱性けいれんと AESD を鑑別することは困難であるため介入が遅れ、多くの症例は後遺症を残す。

AESD の早期診断法を確立するため、2004 年 1 月から 2014 年 8 月にかけて FSE のため当院に入院した 213 例を後方視的に検討した。対象を AESD 群と非 AESD 群に分け、臨床経過、血液検査データを比較した。

213 例のうち 19 例が AESD となった。AESD 群は非 AESD 群と比較し、有意に FSE 後の覚醒までの時間が長く、アシドーシスが高度であり、肝障害・腎障害が強く、NH<sub>3</sub> 高値、高血糖であった。これらの因子を解析し、AESD を予測するためのスコアリングモデルを作成した。4 点をカットオフとし、感度 93%、特異度 91%であった。また、スコアは後遺症スケールとも正の相関があった。

スコアリングモデルを用いることで AESD の早期予測が可能である。高スコアの症例は慎重に経過観察を行うか、早期介入を考慮すべきである。